



干拓地に生きてきた人々の知恵から、
—これからの防災を考える—

災害を考える地域探検

～子どもと保護者と地域をつなぐ「学区に根差した防災すごろく」の活用～

岡山大学地域防災プロジェクトチーム

プロジェクトの経緯（当初計画 → 変更後）

当初計画

レンズ越しの防災！すごろくを通して学ぶ防災探検

- 操南中学校での防災すごろく
(防災すごろく等)

- ✗ 地域住民による写真コンテスト
- ✗ QRコード付きマップの作成・配布



課題

学校側との日程調整が難航
→ 年度内実施が困難に



変更後

災害を考える地域探検

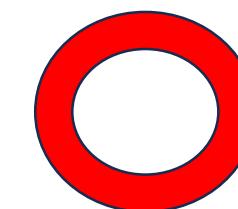
住民参加型のフィールドワーク
(2月15日実施)

地域史・土地勘・防災を結ぶ
→ 次年度への布石



対応

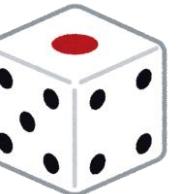
地域住民を対象とした
「災害を考える地域探検」へ



防災すごろく…防災国体後も継続

※当初より計画変更はあったが、

○操南中学校での防災すごろく



→ 学校の授業でも実施中



出展期間：2025/9/6～9/7
ブース展示

防災推進国民大会 2025 in新潟



操南学区防災すごろく

変更後の新たな取り組み：操南学区街歩き巡検



日時

2月15日（日）13:30～（2～3時間程度）



名称

干拓地に生きてきた人々の知恵から、
—これからの防災を考える—
災害を考える地域探検



目的

地域史と土地勘に基づく防災意識の醸成



方法（徒步）

南→北の縦断で干拓・治水の痕跡を現地理解

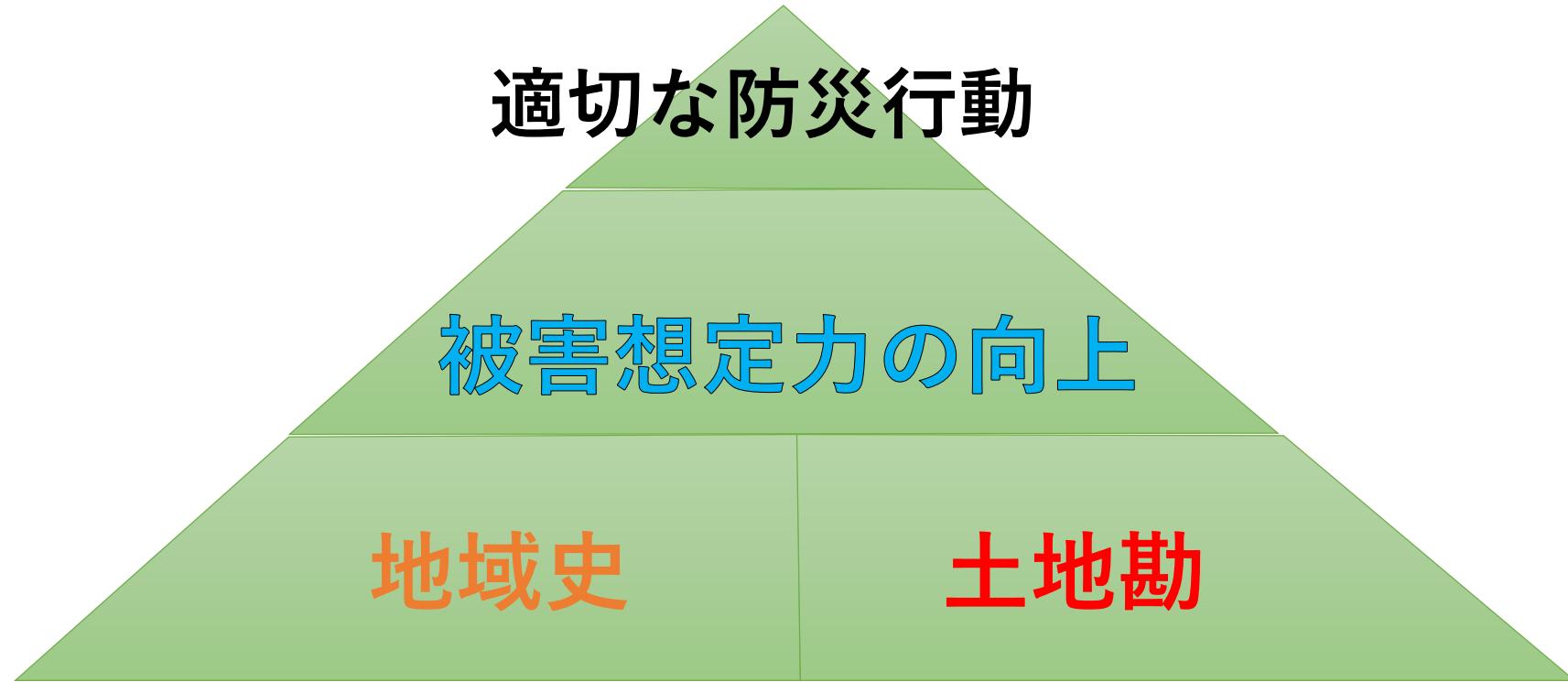


成果

実施前後でアンケート、資料共有（市・地域向け）



地域史と土地勘に基づく防災意識の醸成



昨年の成果

- ・ 地域史をふまえることで、災害被害の程度を左右させる地域特性を理解
- ・ しかし、防災すごろく作成者の中学生より、イベントに参加しただけの地域住民の防災意識（数値として）高かった。
→被害想定力の向上には「土地勘」が効いているのかも？

ルート設計の工夫（防災教育として）



↑ 南→北（低地→高地）で水平避難



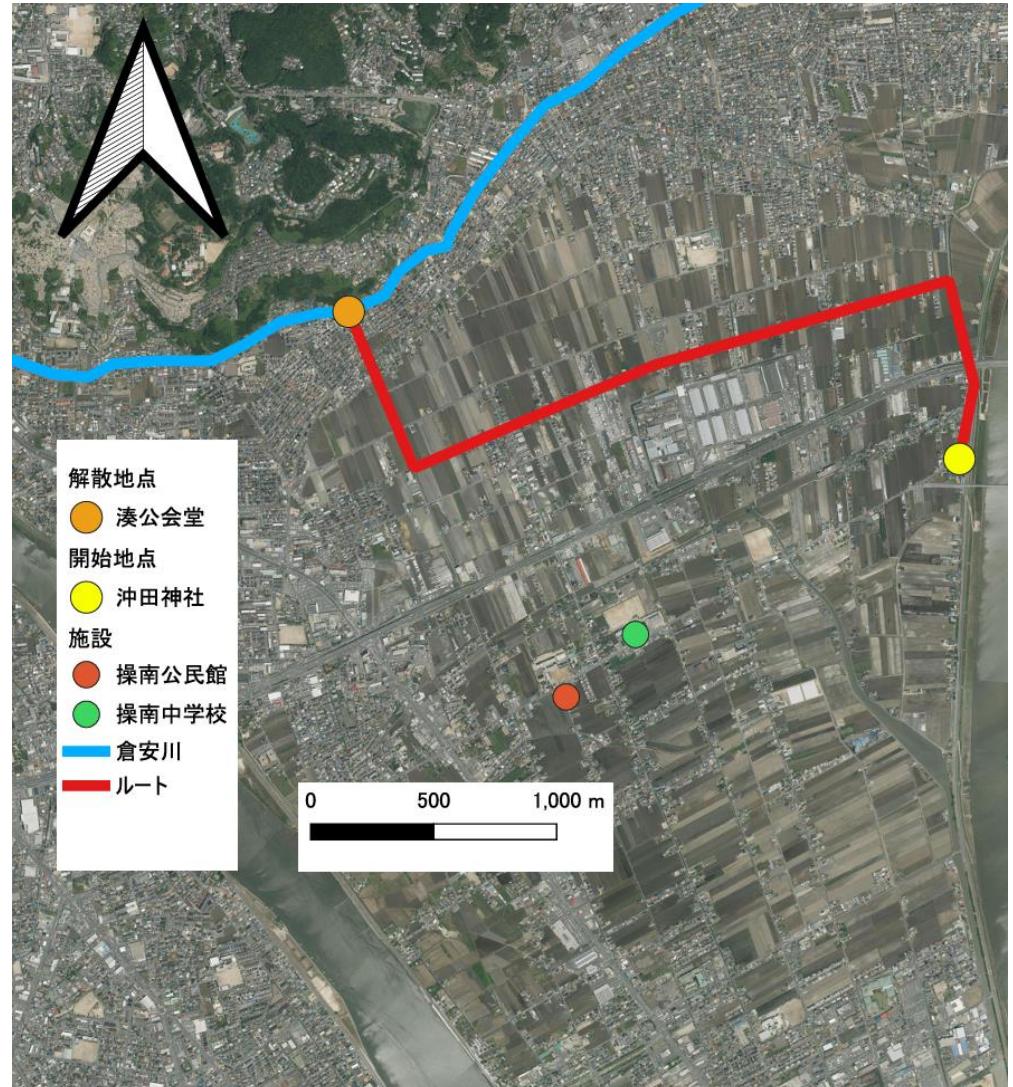
↔ 東西横断で干拓地の広がりを体感



倉安川と南北の用水路の関係に着目



地図で標高・水系を可視化



—地域探検ルート—

期待される効果



被害想定力の向上



地域コミュニティの醸成

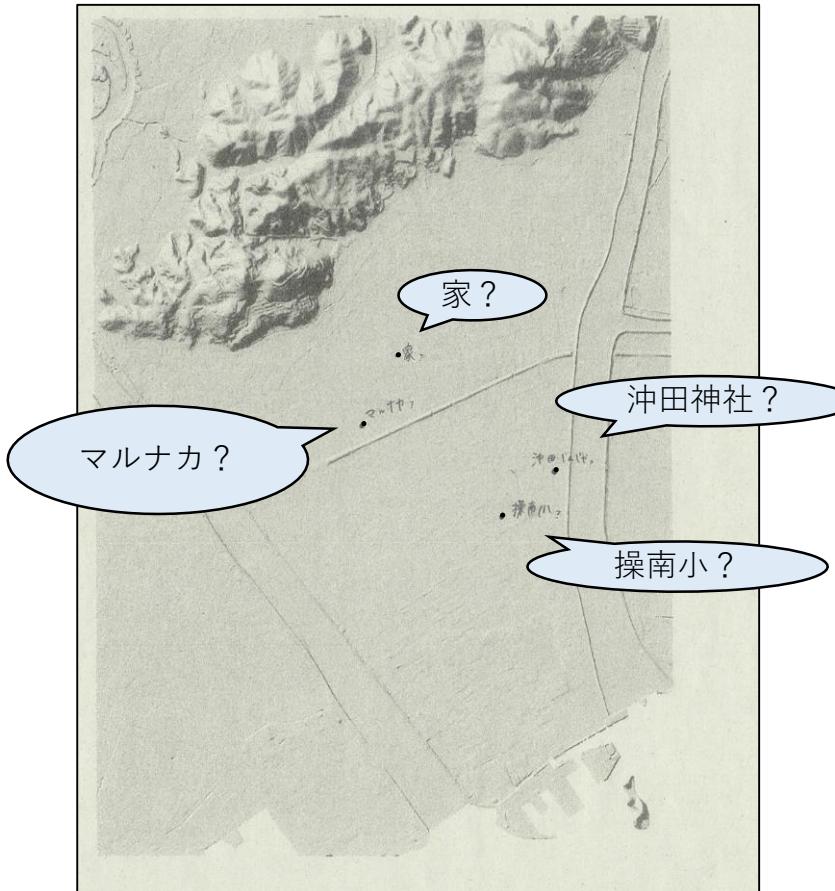


成果：アンケート実施 (教育効果の測定)

※前回例

被害想定力 (※防災すごろく作成後)

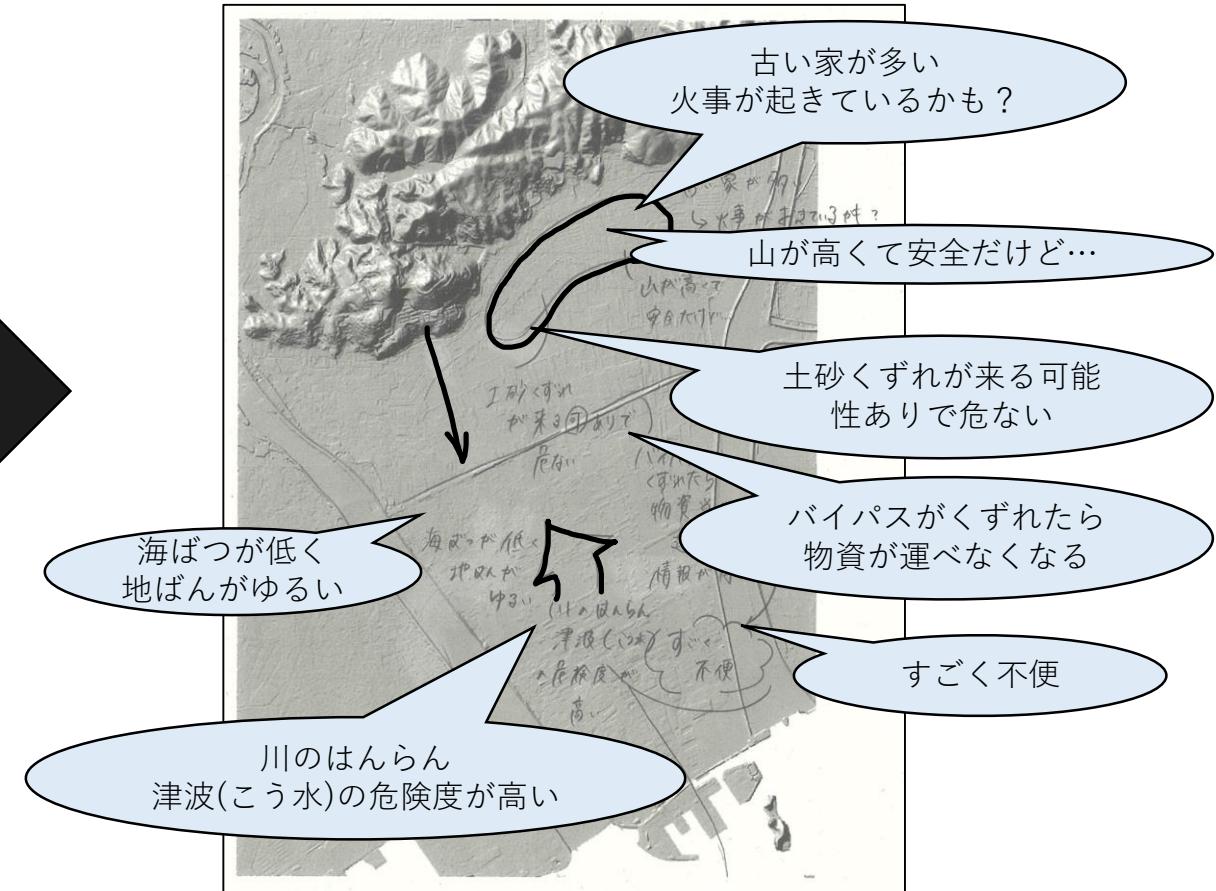
すごろく作成前



自宅や施設の位置のみ

神戸研修後と公民館イベント後は
顕著な変化はみられなかった

すごろく作成後



地域の特徴を踏まえた被害を想定

今後のスケジュール

開催・分析

明日 (2月15日)

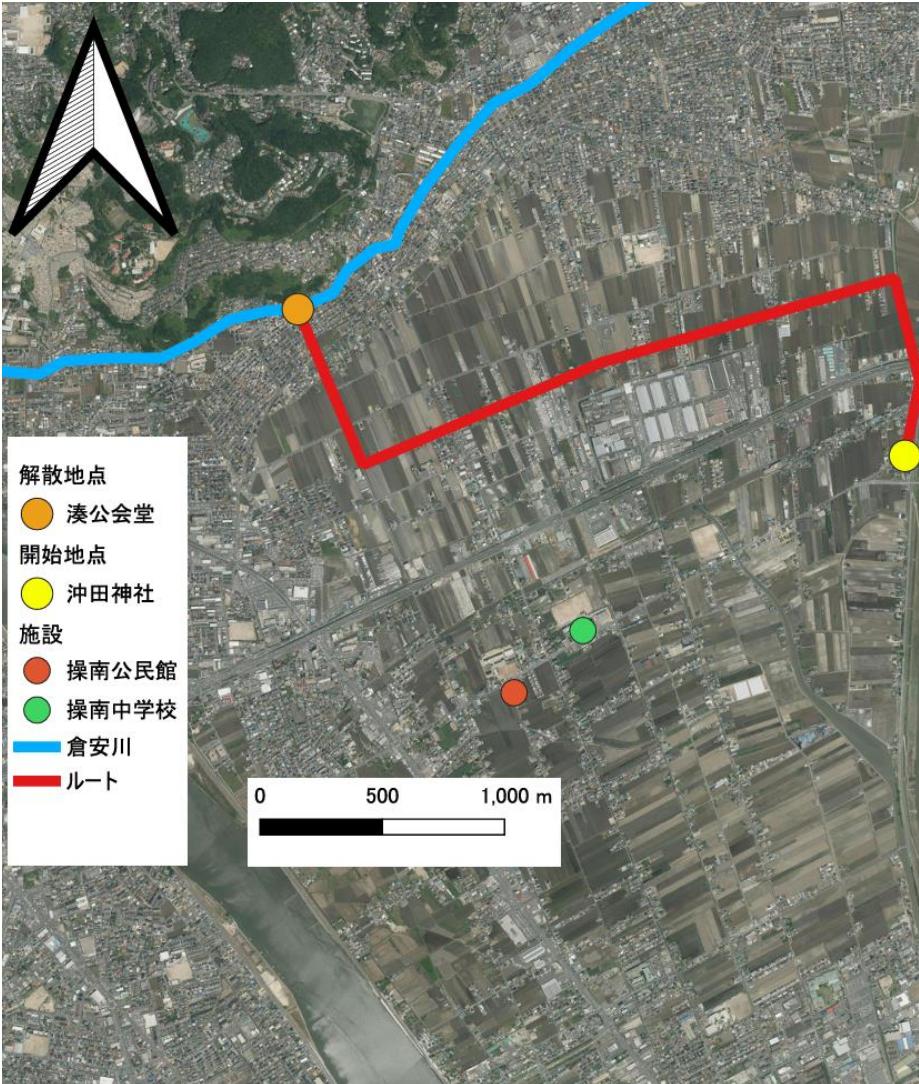
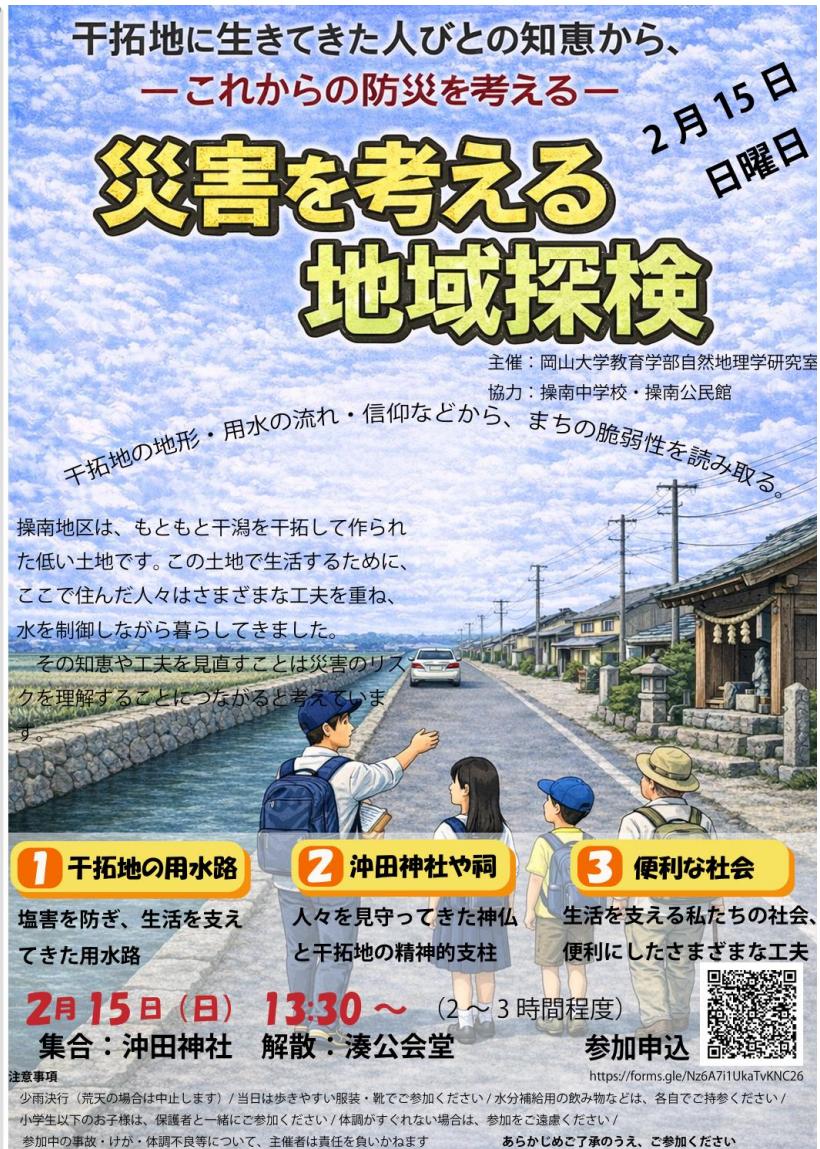
開始 13:30～ (2~3時間)

開催後

アンケート結果の分析
→教育効果の測定

or

次年度への応用



—地域探検ルート—

開催概要（日時・場所・持ち物）



日時

2月15日（日）13:30～（2～3時間程度）



集合・解散場所

集合：沖田神社／解散：湊公会堂（倉安川沿い・バス停あり）



距離

約4km（徒步約50分十解説・休憩）



主催

～子どもと保護者をつなぐ「学区に根差した防災すごろく」の活用～
岡山大学地域防災プロジェクトチーム



持ち物

歩きやすい靴・飲料・雨具

The poster features a blue sky with white clouds. In the upper right corner, the date "2月15日 日曜日" is written diagonally. The main title "災害を考える 地域探検" is displayed prominently in large yellow letters. Below the title, it says "干拓地に生きてきた人びとの知恵から、一これからの防災を考えるー". The text "主催: 岡山大学教育学部自然地理学研究室 協力: 操南中学校・操南公民館" provides the organizer and partner information. A subtitle at the bottom left reads "干拓地の地形・用水の流れ・信仰などから、まちの脆弱性を読み取る。" The central image shows a street scene with traditional Japanese houses, a river, and utility poles under a clear sky. At the bottom, three children are shown pointing towards the river, with numbered callouts explaining the features: 1. 干拓地の用水路 (Irrigation canal of reclaimed land), 2. 沖田神社や祠 (Ogita Shrine or Shrine), and 3. 便利な社会 (Convenient society). The bottom section contains the event details: "2月15日(日) 13:30～ (2～3時間程度)" and "集合: 沖田神社 解散: 湊公会堂". It also includes a QR code and a note about participation terms.